

平成28年度 学校評価（自己評価／年度末評価）

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の主体的な活動の推進及びその指導法の改善</li> <li>○保護者や関係機関との連携に基づく教育の充実</li> <li>○地域のセンター的機能の拡充</li> </ul>			
項目担当	重点目標	具体的方策	中間評価	評価結果と課題
総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見やすい学校だより</li> <li>・スクールキャラクターの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を吟味し、紙面割りを考える。</li> <li>・職員が使用する名札や名刺、学校から配信される文書に掲載してもらう。</li> <li>・利用しやすいスクールキャラクターのイラスト集を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・105号からレイアウトを横書きにした。職員からレイアウト、内容などについての意見を集約し、106号より内容を検討して作成している。</li> <li>・新年度転任者・管理職には、スクールキャラクターが印刷された名札を配付した。</li> <li>・学校だより、HP、案内文などに掲載している。また、授業などでも活用されており、広く浸透してきた。</li> <li>・現在、職員からの要望により7パターンデザインのデザインがある。保存場所、形式を整え、活用しやすいようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・105号から横書きのレイアウトにし、106号から高等部生徒の大会記録やひがどんを掲載した。</li> <li>・今後、各部だよりや分掌だよりの内容を洗い出し、保護者の目線で学校だよりから知りたい情報は何かを検討し、内容を見直す必要がある。</li> <li>・現在12パターンのデザインがあり、活用しやすいようにイラスト集を作成した。学校だより、HP、案内文などに掲載したり、授業でも取り上げられたりして、広く浸透してきた。</li> <li>・今後も、児童生徒が親しみをもてるように、学校だよりや校内掲示、行事案内、学習場面などでの活用を働きかけていく必要がある。また、必要に応じてイラストパターンを作成できるように研修を行いたい。</li> </ul>
教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画を生かした支援の充実</li> <li>・教材、教具等の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な指導目標の設定に生かしたり、効果的な手だてを考えたりするための方策を考える。今年度は、個別の指導計画に自立活動の内容（6区分26項目）を書き加え、職員間で確認することで、目標や手だての共通理解を図る。</li> <li>・教材プリントデータの更新や教材室の整理整頓を定期的に行い、活用の充実につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画に自立活動の内容（6区分26項目）を記入するとともに、学年ごとに目標や手だてをまとめたものを作成したことで、学年や関係職員で共通理解を図ることができた。さらに指導や次年度への引継ぎに生かしていけるよう活用を促していく。</li> <li>・年度当初に、全職員へ自作教材プリントのデータ保存を依頼し、教科領域会や教務部でデータ整理を行った。今後、学校HPへのデータ更新を行う予定である。また、教材室の定期的な整理整頓を呼びかけた。より分かりやすい配置に心がけ、教材・教具の有効活用を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の活用、及び、研修部（全校研究）や自立活動部と連携することにより、個々の児童生徒への自立活動の目標をより意識した授業実践や学校生活での指導ができた。</li> <li>・児童生徒本人や保護者に「合理的配慮」の十分な提供ができるようにしていくことが重要である。観点や代表的な例を示して教職員の意識向上を図るとともに、個別の教育支援計画への記載について検討をしていきたい。</li> <li>・教材プリントデータについて学校HPのデータ更新を行った。有効活用してもらえるよう、懇談会等を通じて保護者に周知していきたい。教材・教具の計画的な購入を進めるとともに、劣化している物の廃棄・修理等についても時期を決めて行っていきたい。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な通学環境の整備</li> <li>・基本的生活習慣の定着</li> <li>・防災体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SB6コースの安全管理、運行の適正化に努める。（緊急時の対応、経路・ダイヤの調整）</li> <li>・自力通学生の通学経路の把握と交通安全指導を徹底し、事故防止に努める。</li> <li>・挨拶の習慣、身だしなみの意識、持ち物を管理する力を高め、好ましい生活習慣の定着を図る。</li> <li>・マニュアル及び訓練により、災害時の職員の対応、役割を周知する。</li> <li>・防災物品、備蓄食糧の管理及び整備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一学期の運行状況を確認し、一部のコースの運行ダイヤの調整を行った。</li> <li>・登下校時の交通安全指導を定期的実施し、通学中の事故発生件数が減少した。（2件）</li> <li>・生徒会、執行委員会を中心にあいさつ運動を進めている。</li> <li>・職員の訓練等の繰り返して防災の意識が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コース毎の乗車数及びバス停の利用者数の偏りを可能な限り均一化するために、一部コース（大山、一宮北、小牧）の見直しを図り、次年度案（新規バス停2カ所増設）を決定した。</li> <li>・緊急地震速報受信システムを活用した訓練も取り入れることで、職員、児童生徒ともに意識が高まり、また、児童生徒も緊急時の音声放送に慣れ、落ち着いて対応できるようになった。今後、より実際の災害時に生かせるように、訓練内容をより明確にしていく。</li> <li>・防災物品ではカセットコンロの購入、備蓄食料では新入生の3日分の食料を確保することができた。毛布等の整備、在校生の食料の確保等を進めたい。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部から高等部までの組織的、系統的なキャリア教育の推進と充実</li> <li>・職員の進路指導における専門性の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講話会等を開催し、保護者の意識を高める。</li> <li>・関係分掌と連携し、児童生徒の抱える課題に応じて、個別支援会議を開催し、地域につなげられるよう努める。</li> <li>・職員向けの現職研修や進路講座等を充実させ、進路情報を積極的に提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向けの進路講話会として、外部講師（福祉施設）による講話を二回実施した。</li> <li>・地域支援部と連携し、地域の相談機関を交えて情報交換や個別支援会議を実施し、個に応じた進路指導を実施している。</li> <li>・外部講師（企業）による職員向け現職研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童養護施設から通学する生徒を中心に、地域支援部と連携しながら早期から個別支援会議を実施し、卒業後の進路について共通理解を図り、新生活が円滑に行われるようにした。</li> <li>・卒業後の職業生活及び地域での生活の安定を図るため、相談支援センターや福祉課、障害者就業・生活支援センターとの連携に努めた。</li> <li>・今後も、卒業後の福祉サービス利用の手続きと一般就労までの流れについて、高等部の職員を中心に随時情報を発信し、情報の共有や進路指導の専門性の向上を図りたい。</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の健康づくりの推進</li> <li>・安全な環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室経営の充実を図り、学校保健活動の中心としての役割を果たす。</li> <li>・緊急対応訓練をととして職員の安全意識を高め、職員間の連携を図る。</li> <li>・日々の活動を通じて児童生徒の健康の保持増進を図る。</li> <li>・教育活動全体をととして食育指導などによって好ましい食習慣を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修を活用し、学校保健の情報発信を図っている。</li> <li>・心肺蘇生手順のDVDを全教職員で視聴・共通理解し、安全意識の向上を図った。</li> <li>・児童生徒の健康観察を充実し、健康状態を把握することができている。</li> <li>・食に関する指導全体計画を各部の実態に合った内容に検討し、有効活用できるように見直しを進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材を活用し、教職員への情報共有することで教員の意識向上が図れた。また、実際の場面を想定した訓練を年3回実施しており、有事への対応が図れるようになった。内線電話にカードを設置し、慌てずに必要な情報を確実に伝えられるようにした。</li> <li>・1月からは全家庭に個人の健康観察カードを配付し検温等を記入することをお願いした。職員保護者が児童生徒の健康状態をしっかりと把握できた。また、校内一斉換気も一定の効果が見られた。</li> <li>・年間指導計画と食の全体指導計画を照らし合わせ有効活用が図れたと思う。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の専門性と指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現職研修の充実を図る。</li> <li>・全校研究の活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救護救急法では、校内のAEDの現物確認を、また、保健に関する講習会では、食物アレルギーや嘔吐物の処理についての講義を新たに行ったことにより、児童生徒の安全に対する意識をより高めることができた。</li> <li>・各グループでは、本年度の授業実践を終え、3年間の研究のまとめの段階に入った。今後は、実態把握のためのチェックリストの利活用を継続し、手立てや指導をより丁寧にできるように啓発していきたい。また、適切な自立活動のねらいを指導者間で共有するため、学年会やケース会等の活用を提案していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材教具展は、例年より出展数が多く盛況で、新設の自立活動部コーナーが特に好評であった。来年度は、教務関連の研修を加え、新学習指導要領についての共通理解を図りたい。</li> <li>・3年間の全校研究で、自立活動の視点で日々の指導や授業を進めていく意識を高め、授業実践やグループでの話し合いにより、具体的な支援の方法や、評価のあり方等の取組をまとめることができた。今後は、研究で学んだアセスメント方法を利活用し、より適切な目標設定や支援の手だて、評価等につなげていけるとよい。</li> </ul>

視 聴 覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚機器の有効利用の推進</li> <li>・図書室の円滑な運営および、児童生徒の利用促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚準備室や機器を使いやすく整備する。</li> <li>・普通教室用視聴覚機器（CD ラジカセ、液晶テレビ等）の更新。</li> <li>・利用しやすい図書室を目指した環境整備。</li> <li>・図書の紛失防止に努め、貸出・返却方法の周知徹底を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型テレビに設置した各機器の電源コードを1本のケーブルに集約し、使用者がスムーズに扱えるようにした。</li> <li>・普通教室用のCD ラジカセの更新を進めた。</li> <li>・図書室の利用促進と利便性を図る目的で、移動図書室の試行を企画した。実施後の反省を踏まえて、次年度以降の本格実施に向けて準備したい。</li> <li>・本の取り扱いや貸出し、返却など、図書室の利用方法についてのビデオを作成し、読書週間に合わせてDVDやPCでの閲覧ができるようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚機器を安全かつ、使いやすく整備することに取り組んだ。日頃から点検を行ったほか、使用者からの情報を元に、メンテナンスを実施した。移動の多い大型テレビで機器の老朽化が目立つため、次年度以降更新を進めたい。使用しない物品についても廃棄を進める。</li> <li>・読書週間で実施した移動図書室について、生徒・職員とも概ね好評であった。運用方法を検討し、担当者の過度な負担増とならないように、次年度以降の本格実施に向けて準備を整えたい。</li> <li>・本の取扱いや図書室利用に関するビデオを作成して授業等で活用できるようにした。今後も、児童生徒が関心をもてるような工夫をして図書室の利用促進につなげたい。</li> </ul>
情 報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の情報活用技能およびセキュリティ意識の向上</li> <li>・情報モラルの教育の充実</li> <li>・校内情報化推進のための情報管理及び活用に対する先導と分掌間の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的なサポートとともに、夏季休業中に情報機器活用講座を開催する。教員のセキュリティ意識を高めるために、資料提供などの啓発に努める。</li> <li>・情報モラル教育について、担任や学年、生徒指導部等との連携を密にして進めていく。</li> <li>・他分掌等と連携して、タブレット端末の研究と有効利用を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に、校内の情報機器活用講座を開催した。</li> <li>・情報モラルアンケートを、中学部と高等部の保護者および高等部生徒に実施した。担任や学年と連携して、アンケートの結果を、個別懇談に活用した。</li> <li>・自立活動部と連携して、タブレット端末の研修会を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラルの校内職員研修を、一部職員で実施した。より多くの職員が効率的に参加できるように、内容や実施方法を考えていきたい。</li> <li>・携帯電話会社による生徒向けスマホ安全教室を実施できた。実施結果を検証し、来年度の実施について検討したい。</li> <li>・タブレット端末の研修会を実施したり、校内の利用事例を集約したりできた。他分掌との連携や情報部内の体制等、利用推進について更なる検討が必要である。</li> </ul>
地 域 支 援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育のセンター的機能の充実</li> <li>・校内の児童生徒に対しての支援体制の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季研修会を実施し、児童生徒を支援する際に必要な知識や情報、障害特性に応じた支援方法等を提供する。</li> <li>・必要に応じて個別支援会議を開催し、関係機関等との連携を図るとともに、児童生徒が必要とする支援体制等を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が講師となり、応用行動分析の考え方をういた研修を8月に実施した。小中学校の特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの参加が多くあった。</li> <li>・地域での支援が必要な生徒については、関係機関と連携して定期的に個別支援会議を開き、支援体制等の確認を行うシステムができてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部から70名の参加があり、事後のアンケートには「講義後に実際にシートに記入することがよい研修になった」という記述が多く見られた。このパターンを今後も活用できるとよい。</li> <li>・支援会議を通して関係者が頻繁に顔を合わせ、情報共有や課題整理、支援体制等の確認をし、地域での支援が卒業後も継続できるよう体制を整えてきた。校内では管理職や保健・生徒指導・進路指導部の各主任との連絡を密にし、特別支援学校が主体となる支援から地域の福祉・就労機関が主体となるようさらに連携を図りたい。</li> </ul>
自 立 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導支援の検討及び整理</li> <li>・教材・教具等の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導場面ごとの手引きを作成し、職員の共通認識のもとで指導ができるようにする。手引きに名称を定め、全職員に周知する。</li> <li>・既存の教材・教具を再整備し、使いやすい環境を整える。また、新たな教材の開発を行い有効活用につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科領域会（日常生活の指導）と連携して着替えの指導の手引きを作成している。年度末に校内に周知できるようにする。</li> <li>・既存の教材教具の整理及び修理を行った。新規購入した教材を部会等で紹介し利用の促進に努めた。また、簡単な手作り教材を作製し、校内で貸し出す準備を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科領域会（日常生活の指導）で作成された着替えの指導に関わる手順表を紹介した。「教科領域指導集」として、校内ネットワーク上で閲覧できるようにし、職員が共通認識のもと指導できるように周知していきたい。</li> <li>・新規購入した教材教具や手作り教材を便りや校内ネットワーク上で紹介し、授業等で有効活用できるように努めた。今後も教材教具の開発や活用方法を研究することで、自立活動の指導の充実を図っていきたい。</li> </ul>
小 学 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣や日常生活における基本的な力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身辺処理を中心とした日常生活の基本的な力を基礎から見直す。</li> <li>・安全な生活環境の整備や個の実態に応じた支援を充実させることで、けがや事故等のない安全で健康な生活を送れるようにする。</li> <li>・自立活動の視点を取り入れた授業実践を職員間で共通理解して行い、部全体で自立活動の指導についての意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年を中心にカードや手順表等を使用して、身辺処理を中心とした日常生活の基本的な力の向上に向けての支援が充実してきている。</li> <li>・中高学年を中心に、移動時は手をつなぐ、廊下は走らない等のルールを学校生活全般で徹底しており校内でのけががない状況である。</li> <li>・自立活動の視点を取り入れた授業実践を行ったことで、学年内での共通理解が深まった。朝の会や休み時間に自立課題を取り入れる学級も増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学年からカードやポスター、シールの目印等視覚的な支援を増やして自分で気づいてやる力の育成を図ることができた。今後も職員間の共通理解のもと、こうした手だてを活用して支援にあたっていきたい。</li> <li>・基本的なルールをしっかりと指導できたおかげで、校内におけるけがが少なかった。しかし予想外の行動によりヒヤリとした場面も多くあった。ヒヤリハット情報を部全体で共有する場面を作り、職員の危険予知の力を高めていきたい。</li> <li>・全校研究や個別の指導計画の自立活動の内容一覧表を学年で共有したことで、自立活動への意識が高まった。今後はより個に応じた支援を行える場や時間について検討を行っていきたい。</li> </ul>
中 学 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員が「分かった」「できた」と感じられる授業を創り、笑顔あふれる中学部をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインの視点から補助具を開発したり、環境を整えたりして生徒自身が課題を理解し、落ち着いて取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な授業場面においてICT機器の利活用や写真・イラストを積極的に使い、生徒への「分かりやすさ」に配慮した学習を展開している。</li> <li>・中学部集会で「ありがとうチャンピオン」として、みんなのために積極的に活動した生徒を表彰したり、近隣の公園に出向き校外での販売実習を展開したりするなど、生徒が他者に認められる活動を取り入れることで、自己肯定感が高まり、笑顔で過ごす姿が目立つようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態を把握し、ICT機器の活用や写真・イラストなどをういた授業が積極的に展開され、生徒が「分かった」「できた」と感じられる場面が増え、笑顔で授業に参加することができた。</li> <li>・分かりやすい授業、集会活動での発表や表彰、校内・校外での販売実習、いきいきタイムなどで生徒一人一人が輝く場面を数多く設定することで自己有用感・自己肯定感の高まりが感じられ、毎日元気に登校し、意欲的に学校生活を送る姿が目立った。</li> </ul>
高 等 部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立と社会参加のための力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の生活を見据え、自立活動の視点で生徒一人一人の適性にあった指導を行う。</li> <li>・学校生活の様々な行事を通して、基本的な生活習慣の確立など、社会生活を営む上で必要な力を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会の時間などを利用して個別課題に取り組むなど卒業後の生活にいかすことができる障害特性に応じた支援を行ったり、環境を整えたりすることで、できることが増えたり、落ち着いて学校生活を送ることができたりする生徒が増えてきた。</li> <li>・修学旅行や宿泊学習などの泊を伴う行事や運動会などの学校行事を経験し、仲間を思いやり、協力して学校生活を送ることができるようになってきている。特に、産業現場等における実習・校内実習での経験を通して挨拶・返事・報告などの働く上で必要となる態度が身につくにつれて、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の会の時間を利用して、清掃や読書、ベグ刺しなどの個別課題に取り組んでいる姿がよく見られるようになった。学年会等で生徒一人一人の障害特性を理解し、実態を見極め、指導方法や適切な支援を検討することで、継続した指導をすることができた。今後も生徒一人一人の困難やつまずきなどが軽減できる指導を継続していきたい。</li> <li>・作業学習や産業現場等における実習・校内実習などの経験を通して、挨拶・報告などの働く上で必要となる態度が身につくにつれて、特に、校内で教師とすれ違うときに立ち止まって主体的に挨拶をする生徒が増えてきた。返事については、まだ定着していない生徒もいるため、もう少しはっきりと大きな声でできるようになることが今後の課題である。学級集団を意識した行動がとれるようになり、学級の中で生徒同士が自発的に互いに言葉を掛け合いながら、協力している様子がよく見られるようになった。</li> </ul>
学校関係者評価を実施する 主な項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で気持ちの良い学習環境の整備</li> <li>・自立活動の視点でせまる一人一人を大切に授業展開</li> </ul>			